

IETF 100 QUIC/HTTP 関連

後藤浩之 (グリー)

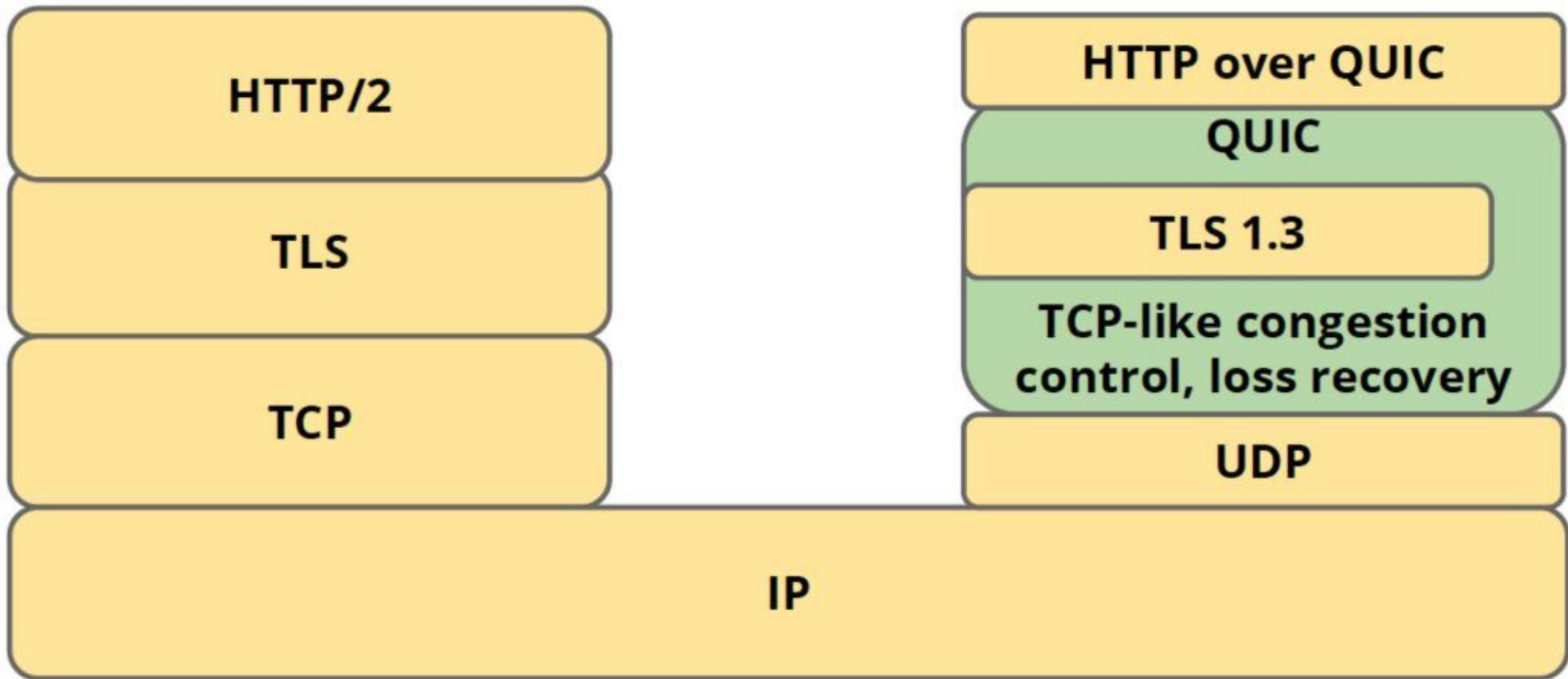


自己紹介

- 後藤 浩行 (グリーン)
- ISOC-JP インターネット標準化推進委員会
- 興味: Web, HTTP・QUIC関連
 - (Artなので, Transportは...)
- IETF
 - IETF94より、オフライン3回目



QUIC関連



QUIC WG

- 2セッション開催
- つらつら



スコープ・マイルストーン

- 10月頃、チェアのmnotよりマイルストーンについて懸念が示される。
 - 2018年3月 に十分な品質の4つのコアドキュメントをIESGに提出するマイルストーン
- 議論
 - v1ではアプリケーションとしてHTTPをターゲットにする
 - 以降のバージョンのデプロイを可能にするため、フォーマットレイアウトの不変な箇所を整理する(Invariants 後述)
 - Interim / interoperability testの頻度を上げる
 - [January 2018 Melbourne](#)
 - マイルストーンの期日はIETF100では決まらず

=> (12/14) 6ヶ月後ろだ押しのマイルストーンに変更された

invariants

- 将来のバージョンをデプロイしやすく(Middleboxの影響を緩和)するために、フォーマットの特定のフィールドを将来的に普遍とする
- avtcore wg側で rfc7983 (STUN, DTLS, TURN Channel... をフラグで見分ける)とのコリジョンに付いても話題に

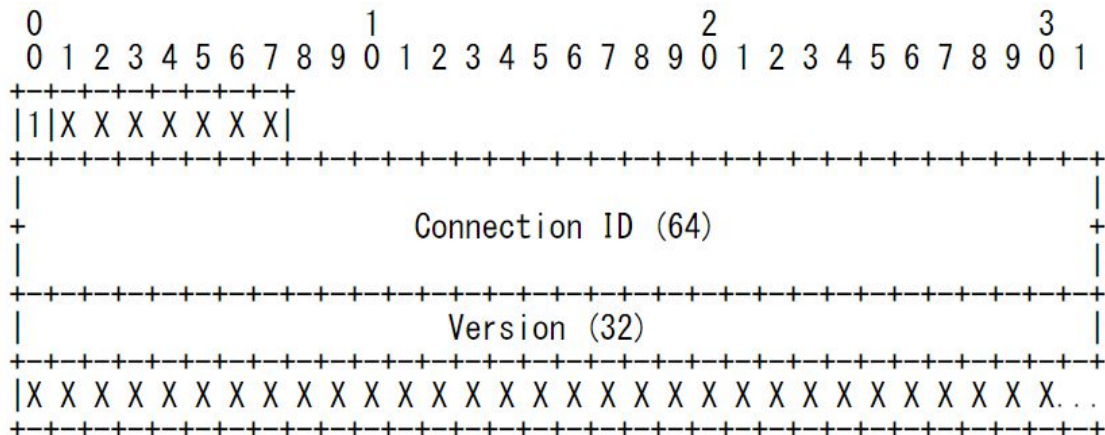


Figure 1: QUIC Long Header

Spin Bit (passive RTT measurement)

- IETF99 より、経路上でRTTを測定し最適化を行うケースがあり、QUICでどのようにするか議論があった。
 - QUICではAckも暗号化され、ハンドシェイク時しかRTTが測定できない
- 1 bitを経路上に露出し、RTTを測定可能にする提案
 - クライアントはパケットが往復するたびにbitを反転する。サーバはクライアントのbitをそのまま返す
- デザインチームにより、有用性およびプライバシーへの影響が調査される
- IETF100 後にi-dが出た (draft-trammell-quic-spin)

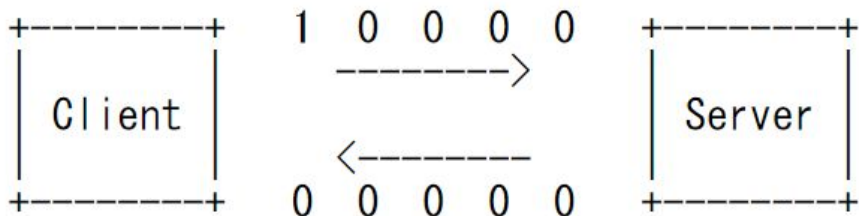


Figure 4: The bit begins spinning

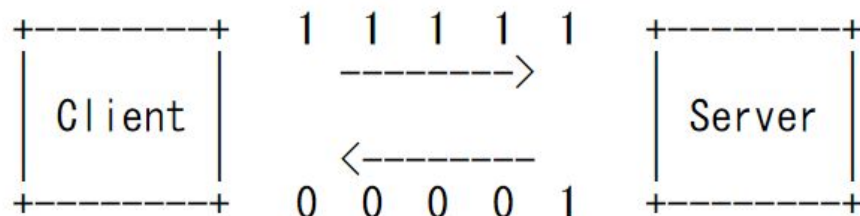


Figure 5: Server reflects the spin edge

その他のトピック

- Loss Recovery
 - Loss Ditection, Timeout, Ack等の話
- Connection Migration
 - マイグレーションの手順(Ping, Pong)
- Third Imprematation Draft
 - 0-RTT, loss recovery などのinterop
 - HTTPを試すためにヘッダ圧縮の議論をすすめる必要がある

HTTP 関連

HTTP WG

- 2セッション開催
 - 2セッションともHTTP関連(QUICは無し)
- 扱っているItemは多い (次ページ)
 - パフォーマンスの改善
 - セキュリティの改善
 - メンテナンス系



Item

- **Bootstrapping WebSockets with HTTP/2 (new)**
- **Variants (new)**
- **Structured Headers for HTTP (new)**
- Secondary Certificates (**wg draft**^)
- HTTPter
- Using Early Data in HTTP
- Random Access and Live Content (**wg draft**^)
- Expect-CT
- Cache Digests for HTTP/2 - presentation
- Client Hints
- RFC6265bis: Cookies
- BCP56bis (**進めるコンセンサス**)

Bootstrapping WebSockets with HTTP/2

- 現状 HTTP/2 上でWebSocketsの通信することは出来ない
 - upgradeヘッダや、ConnectメソッドがHTTP/2では意味が異なるため
- Connectメソッドを使用できるように変更し、ストリームをWebSocket通信用に変更する
- SETTINGSパラメータが追加された
- WG Adopted

5.1. Example

```
[[ From Client ]]
```

```
HEADERS + END_HEADERS
:method = CONNECT
:protocol = websocket
:scheme = https
:path = /chat
:authority = server.example.com:443
sec-websocket-protocol = chat, superchat
sec-websocket-extensions = permessage-deflate
sec-websocket-version = 13
origin = http://www.example.com
```

```
[[ From Server ]]
```

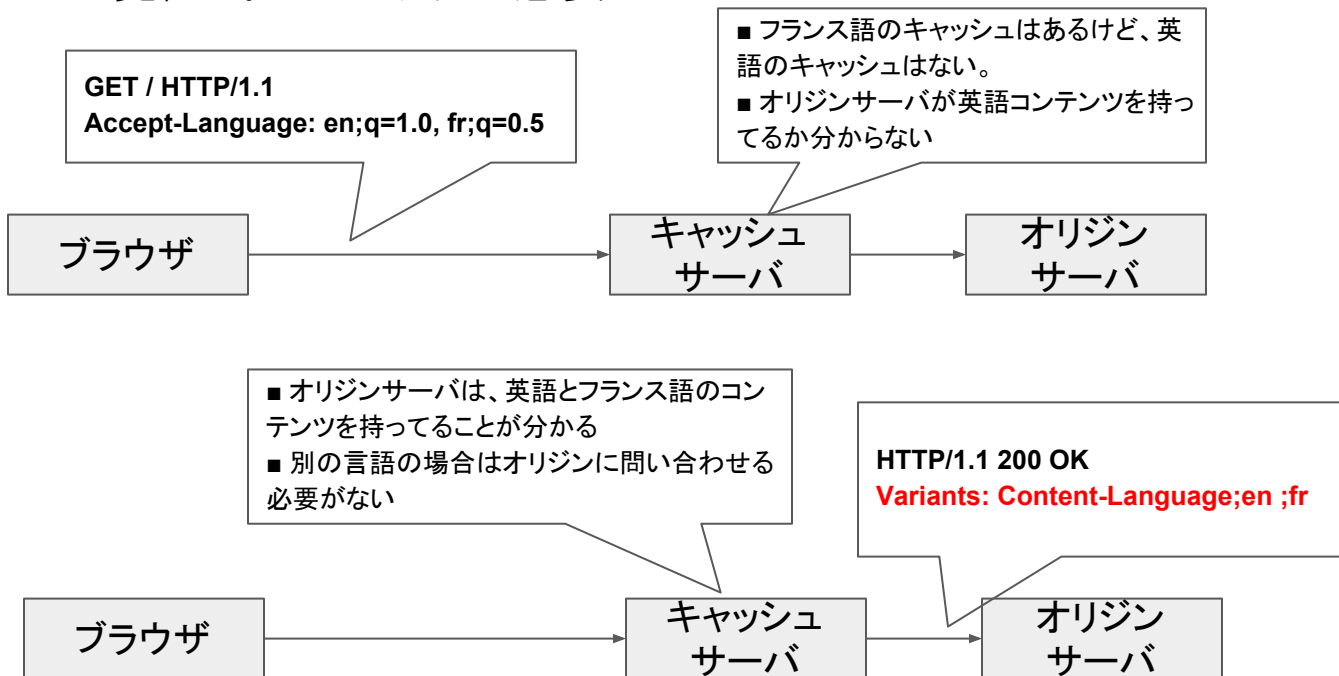
```
SETTINGS
ENABLE_CONNECT_PROTOCOL = 1
```

```
HEADERS + END_HEADERS
:status = 200
sec-websocket-protocol = chat
```

```
DATA
WebSocket Data
```

Variants

- オリジンサーバからキャッシュサーバに、自信の持っているコンテンツの種類を通知可能にする variants HTTPレスポンスヘッダを定義する提案
- より多くの知見, フィードバックが必要



Structured Headers for HTTP

- HTTPヘッダに構造・シンタックス定義を与える提案
- 今までのHTTPヘッダは、ヘッダ毎に構造やシンタックスを定義している
 - パーサーが再利用できない
 - 新しいヘッダを定義するたびに、構造及びシンタックスを定義する必要がある
- 既存のヘッダを置き換えるものではない
- 会場からは好意的な意見

ExampleNumberHeader: 4.5

ExampleLabelListHeader: foo, bar, baz_45

ExampleParamHeader: abc; a=1; b=2; c

ExampleBinaryHeader: *cHJldGVuZCB0aGlzIGlzlGJpbmFyeSBjb250ZW50Lg

おわり